

データで読む

地域再生

農業「6次化」2兆円超え

高付加価値化で挑む。(関連記事を地域経済面に)

1次産業の農業を2次産業の製造業、3次産業の小売りや飲食、観光など総合的に進めるのが6次産業化だ。

「 $1 \times 2 \times 3 = 6$ 」となるように付加価値を高める狙いがある。

農業者が農産加工品の製造・販売や地域資源を生かした観光などを一体的に進める「6次産業化」が拡大している。6次化による年間売上高は10年前より2割強増え、過去最高の2兆1765億円となった。最も伸びたのは木県は農泊などを通じて訪日客も取り込んでおり、高齢化や人手不足に

加工・直売・観光を一体に

農業6次化の売上増減率

■ 60%以上増加
■ 30~59%
■ 0~29%
■ 減少

(注)2022年度を12年度と比較、出所は農林水産省「6次産業化総合調査」

3位 沖縄県

1位 栃木県

2位 德島県

栃木県は農村に宿泊して農作業や食事を楽しむ。修学旅行などで利用

栃木・大田原「農泊」訪日客も

されてきたが、訪日客の関心も高まっていることに着目した。4月には長く農政に携わってきた元県職員を「農村プロデューサー」に任命。訪日客対応のマニュアル作りなどを伴走支援する。

県が今後のモデルとなるのが大田原市だ。周辺地域を含めると約180軒の農家が農泊を受け入れており、農家と協力して整備した古民家ホテルもある。農水省が全国40

カ所を対象とした「農泊インバウンド受入促進重点地域」にも選ばれている。

「どんな場所でも観光

は生み出せる」。同市や地元企業が出資する大田

原ソーリズムの藤井大介社長は、地元農家に農泊

で10年前にはほとんど見かけなかった訪日客が400人泊と過去最多

で、10年前にはほとんど見かけなかった訪日客が400人泊と過去最多

で、10年前にはほとんど見かけなかった訪日客が400人泊と過去最多

で、10年前にはほとんど見かけなかった訪日客が400人泊と過去最多

で、10年前にはほとんど見かけなかった訪日客が400人泊と過去最多

への参加を粘り強く説いてきた。同社が関わった弱と10年前の30倍になつて、23年の農泊利用者は約9

で、10年前にはほとんど見かけなかった訪日客が400人泊と過去最多

で、10年前にはほとんど見かけなかった訪日客が400人泊と過去最多

で、10年前にはほとんど見かけなかった訪日客が400人泊と過去最多

で、10年前にはほとんど見かけなかった訪日客が400人泊と過去最多

物資源産業学部を新設し、6次化に貢献できる

環境は厳しく、6次化への期

待は高まる。

農業経営に詳しい東京

農業大学の堀田和彦教授

りタウン構想を掲げる。

美波、海陽の3町で構成

する海部地域は「きゅう

りゅう」といったコスト上昇もあ

って農家を取り巻く環境

は厳しい。原料やエネルギー

といったコスト上昇もあ

り、新規就農の相談にも

応じる。これまでに22人

は「農業離れに歯止めを

かけるためにも、6次化

規就農し、生産者の平均

年齢も54歳と10年間で10

歳以上若返った。

「農作業などに追われて

る。徳島県では学生が6次

化に携わる機会も増え

らない生産者も多い。自

身も加工・販売する。ユ

ニバウンド受入促進重

点地域」にも選ばれてい

る。同県茂木町は第三セク

ターカーが運営する「道の駅

もてぎ」で特産のユズな

どを加工・販売する。ユ

ニバウンド受入促進重

点地域」にも選ばれてい

る。同市や

ターカーが運営する「道の駅

もてぎ」で特産のユズな

り、最も伸びたのは

木県は農泊などを通じて

72%増の栃木で、徳島70%

増)

、沖縄(65%増)

り、高齢化や人手不足に

が続いた。

(瀬口 聰弘)